

(3) 授業に取り入れたい改善策

① 学習問題Ⅱを単元内に仕組む

佐賀県教育センターが平成25・26年度の「プロジェクト研究」で取り組んだ小・中学校社会科教育研究委員会の研究によると、もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力や、習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり論述したりする力を高める効果が見られた研究内容として、「意思決定を取り入れた討論型の学習」（図1）を提案しています。

具体的には、単元内に2つの学習問題の追究活動を位置付け、学習問題Ⅰとして、知識や概念を追究させるための問題を、学習問題Ⅱとして、習得した知識や技能を活用させ、社会的事象について自分の考えを深めさせ、表現させるための問題を設定した単元構成です。

本研究委員会では、この考え方を援用し、授業づくりに生かすことを提案します。

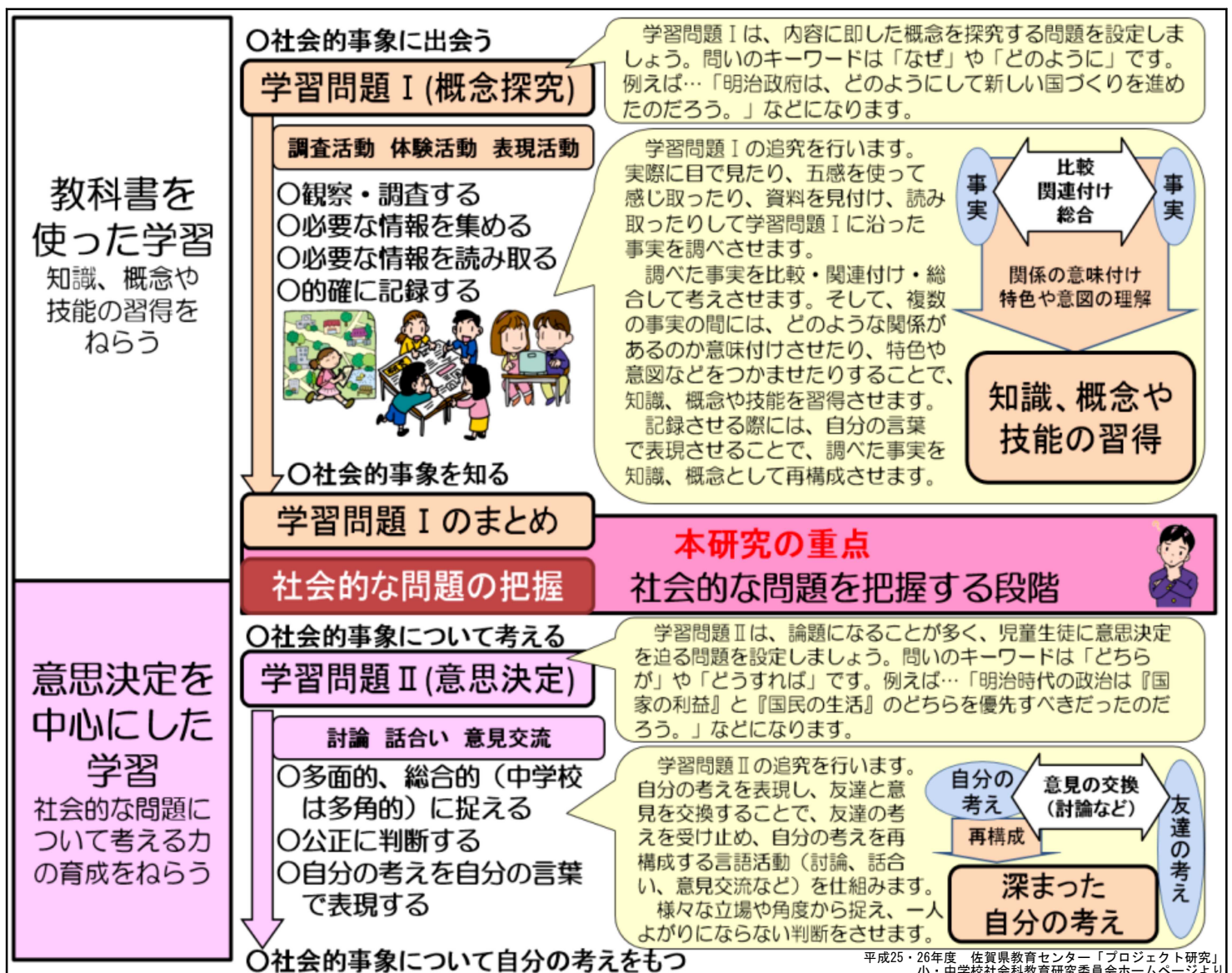


図1 「意思決定を取り入れた討論型の学習」の単元の構成図

※平成25・26年度の「プロジェクト研究」の詳細は以下のWebアドレスより御覧いただけます。

http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm

② 社会的事象の意味を考えさせる教師の問い掛け、問い返し

資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴、働き、役割、因果関係、条件など社会的事象の意味を考えさせる活動を仕組む際、教師の発問や児童とのやり取りが重要になると考えます。社会的事象の意味を児童が考えるようにするためには、以下のような発問をし、児童の反応により問い返ししながら考えさせるようにします。

社会的事象の意味を考えさせる教師の発問

- ・「なぜだろう」と「どうなって（どのようにして）いるのだろうか」を使い分ける。

「なぜ」は、直接意味を問い掛けていることになり、児童にとっては知識を活用して考えて答える必要があります。児童が知識を有しており、考え方が明確になってから使いたい発問です。また、学習問題をつくる際には、児童の「なぜ」「どうして」という疑問を取り上げ、なぜだと思いかと問い掛けることで、児童に社会的事象の意味を意識させたり、児童から既存の知識を使った予想を引き出したり、調べたいという問題意識を高めさせたりすることができると考えます。

「どうなって（どのようにして）いるのだろうか」は、事実（調べて分かること）を基にした返答を求めて問い掛けていることになるため、児童の知識を引き出させたいときに使いたい発問です。また、学習問題をつくる際には、児童の「どうなって（どのようにして）いるのだろうか」という疑問を取り上げ、これからどんな学習をしたいかを問い返すことで、児童が問題意識をもった学習計画を立てることができると考えます。

さらに、これらの発問は、知識を活用させたり、知識を直接問うたりする発問になるため、社会的事象についての基礎的な知識を身に付けることにも効果があると考えます。

※必ずしも「どうなって（どのようにして）いるのだろうか」→「なぜだろう」の順で問い掛けるわけではありません。児童の反応を見ながら、組み合わせて問い掛け、問い返しを行います。

③ 視覚化して考えさせる

児童に求める思考方法は、前項で述べたとおり、主に比較、関連付け、総合の3つです。これらの思考へと誘うために、板書やワークシート等で調べたことや分かったことを視覚化する手立てを取り入れます。具体的には、思考方法に応じて以下のような活動を仕組めます。

・比較させる活動

複数の情報を比較させる思考活動は、児童が比べることによって考える活動です。表や図を使って、左右に見て比べやすいようにする手立てを講じます。

・関連付けさせる活動

複数の情報を関連付けさせる思考活動は、児童が情報をつなげることによって考える活動です。資料と資料を線で結ばせたり、矢印を書き込ませたりしてつながりが見えるように意識させるようにする手立てを講じます。

・総合して考えさせる活動

複数の情報を総合して考えさせる思考活動は、児童がまとめて考える活動です。模造紙や画用紙、ホワイトボードなどにまとめて書かせたり、板書に表や図を使って整理させたりして社会的事象を俯瞰して見るようにする手立てを講じます。

※視覚化は、あくまで思考させるための手掛かりにするものだと考えます。したがって、前述の「① 学習問題Ⅱを単元内に仕組む」や「② 社会的事象の意味を考えさせる教師の問い掛け、問い返し」と組み合わせることでの効果が高いと考えます。

④ 思考をつなげる

社会科の学習は単元を通して1サイクルになります。学習問題の追究活動が、前時から引き継がれ、次時につながっていく必要があると考えます。そこで、毎時の振り返りを大切にしたいと考えます。手立てとしては、毎時の振り返りを、単元を通して1枚のワークシートに記述させ、学習問題の解決を意識させるようにすることや授業の最初に前時の振り返りを確認させた上で本時のめあてを確認することが考えられます。このようにして、児童の思考を1単位時間を超えてつなげるようにする必要があると考えます。

参考資料

- ・佐賀県教育センター 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』 平成26年3月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm
- ・澤井陽介 『澤井陽介の社会科のデザイン』 2015年 東洋館出版社